

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	波崎町立植松小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	3	2	2	2	4	18	26
児童数	95	72	94	76	74	77	13	501	

研究の概要

1. 研究主題

児童一人一人に「確かな学力」の定着を図るための多様な指導方法の工夫
 ~各教科・領域における，TT，少人数指導，習熟度別指導，教科担任制等の実践を通して~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・ 1年生から6年生まで各教科，領域において研究を進めた。
 「確かな学力」を身に付けるためには，研究の領域を限定せずに，幅広く実践していくことが必要であると判断したため。

(2) 年次ごとの計画

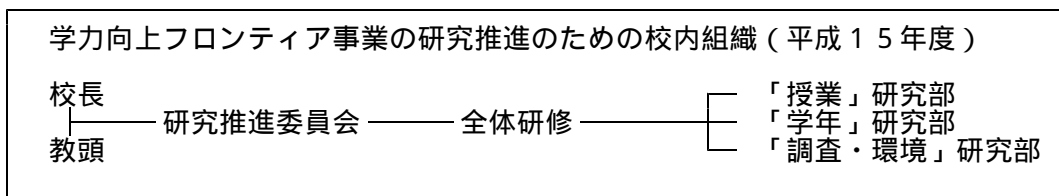
平成14年度	<p>テーマ 児童一人一人に「確かな学力」の定着を図るための多様な指導方法の工夫。</p> <p>研究の見通し(仮説) 児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導方法を工夫することによって，児童一人一人に，新学習指導要領のねらいとする「確かな学力」を身に付けさせることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 児童一人一人の実態をとらえるための実践 ア 年度当初に，児童に対して学習・生活に関するアンケート調査を実施した。 イ 単元に入る前に，その単元に関する実態調査を実施した。 ウ 単元の途中・終末では「学習カード」等により実態を把握した。 エ 授業研究の際に，参観者の目で児童の実態をとらえ記述してもらった。</p> <p>「学力」とは何かをとらえるための実践 ア 文部科学省の刊行物にあたり，新学習指導要領のねらいをつかんだ。 イ 文部科学省から講師を招き，「教育講演会」を実施した。 ウ 保護者・地域の方・地域の教職員を招き，教育フォーラムを実施した。 エ 茨城大学から講師を招き，理論研究のための「教育講演会」を実施した。</p> <p>きめ細かな指導の，一層の充実を図るための実践 ア 発展的な学習や補充的な学習など，個に応じた指導のための教材開発を行った。 イ 個に応じた指導法，指導体制の工夫・改善に努めた。 ・ TT，少人数指導の工夫 ・ 習熟度別及びコース別による指導の工夫</p>
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園・小学校及び、小学校・中学校交流授業の実践 <p>ウ 児童の学力の評価を生かした指導の改善を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価規準の作成 ・ 到達度評価の研究 ・ 一人一人を生かすカリキュラムの見直し ・ 地域や保護者の意識調査及び学校評価
--	--

平成 15 年度	<p>テーマ 児童一人一人に「確かな学力」の定着を図るための多様な指導方法の工夫。</p> <p>研究の見通し 児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導方法を工夫することによって、児童一人一人に、新学習指導要領のねらいとする「確かな学力」を身に付けさせることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 児童，保護者，地域住民に対する意識調査と分析 研究内容に対する理論的研修 評価規準とカリキュラムの見直し 発展・補充のための教材開発 個に応じた指導法の研究 学校評価並びに達成度評価の研究 報告書の作成並びに次年度研究計画の施策</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 児童一人一人に「確かな学力」の定着を図るための多様な指導方法の工夫。</p> <p>研究の見通し 児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導方法を工夫することによって、児童一人一人に、新学習指導要領のねらいとする「確かな学力」を身に付けさせることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 児童，保護者，地域住民に対する意識調査と分析 研究内容に対する理論的研修 評価規準とカリキュラムの見直し 発展・補充のための教材開発 個に応じた指導法の研究 学校評価並びに達成度評価の研究 最終報告書の作成（研究のまとめ）</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>(1) 少人数指導を計画的に継続して実施することによって、理解の定着にはかなり効果があることが分かった。また、教師自身に積極的に少人数指導を实</p>
--

- 践する姿勢が見られるようになった。
- (2) 習熟度別指導に関して、学校便り、学年通信等で保護者への理解啓発のための情報発信をすることや、授業公開を重ねることにより、保護者の理解を得られるようになった。
- (3) 教科担任制を実施することにより、児童一人一人のよさをさらに幅広く引き出すきめ細かな指導を実践することができた。また、その専門的な視点をさらに生かした教材研究を深めることができた。
- (4) 保護者に対してアンケート調査を実施した。
 (平成14年6月25日, 356家庭)
 (平成15年7月11日, 386家庭)

ア 算数科の授業を2人または3人の先生できめ細かな指導していることを知っていますか。(TTによる指導)

- ・知っている 52% (平成14年) 89% (平成15年)
- ・知らない 48% (平成14年) 11% (平成15年)

イ そのことについてどう考えますか。

- ・とてもよい 37% (平成14年) 52% (平成15年)
- ・まあまあよい 12% (平成14年) 36% (平成15年)
- ・良いとは思わない 2% (平成14年) 1% (平成15年)

ウ 習熟度別指導についてどう考えますか。

- ・よいことである 63% (平成14年) 72% (平成15年)
- ・よいことだが能力で分けるのはよくない 26% (平成14年) 22% (平成15年)
- ・今まで通りがよい 6% (平成14年) 2% (平成15年)

エ 教科担任制についてどう考えますか。

- ・とてもよい 42% (平成14年) 42% (平成15年)
- ・まあまあよい 43% (平成14年) 47% (平成15年)
- ・わからない 14% (平成14年) 10% (平成15年)
- ・よくない 1% (平成14年) 1% (平成15年)

- (5) 3～6学年児童に対してアンケート調査を実施した。
 (平成14年7月12日, 311名)
 (平成15年7月14日, 319名)

ア TTに関する設問「一つの教室で2人の先生と一緒に学習することについてどう考えますか。」

- ・とてもよい 47% (平成14年) 67% (平成15年)
- ・まあまあよい 49% (平成14年) 29% (平成15年)
- ・よくない 4% (平成14年) 4% (平成15年)

イ 少人数指導に関する設問「先生が決めた少人数のグループで学習することについてどう考えますか。」

- ・とてもよい 43% (平成15年)
- ・まあまあよい 36% (平成15年)
- ・よくない 21% (平成15年)

ウ 習熟度別指導に関する設問「自分が決めたグループで2つの教室に分かれて学習することについてどう考えますか。」

- ・とてもよい 62% (平成15年)
- ・まあまあよい 22% (平成15年)
- ・よくない 16% (平成15年)

エ 教科担任制に関する設問「あなたは担任の先生だけでなく、教科によって教える先生が変わるような授業についてどう考えますか。」

- ・とてもよい 47% (平成14年) 66% (平成15年)
- ・まあまあよい 40% (平成14年) 25% (平成15年)
- ・よくない 13% (平成14年) 9% (平成15年)

2. 今後の課題

- (1) 少人数指導をさらに充実させるために、それぞれの集団での有効な教材開発をし、その指導法を研究する。
- (2) きめ細かな指導を行っても、基礎・基本がなかなか定着しない児童への具体的な手立てを図る。
- (3) 学習の到達度を測り、児童・教師共に学習の状況を適切に把握できるように、評価規準の見直しを図る。
- (4) 教科担任制のよさを、学習面、生活面の両面で生かせる指導体制を確立する。
- (5) 中学校との連携に積極的に取り組み、教師一人一人の指導力の向上を図る。
- (6) フロントアティーチャー（フロントアスクールにおける実践研究の成果を普及する上で中心的な役割を担う教員）は、主に校内の実践研究の連絡調整等であった。今後は町内の小学校との連携を図っていく。

学力等把握のための学校としての取組

- 1 「学力診断のためのテスト」(茨城県教育研究会)の実施と分析
 - (1) 調査の目的
 - ・ 国語・社会・算数・理科の各分野・領域などの問題について、どの程度の理解力・思考力・判断力や知識・技能があるのかについてテストする。
 - (2) 実施内容
 - ・ 4 学年～6 学年の児童について、国語・社会・算数・理科のテストを実施する。
 - (3) 実施時期
 - ・ 平成14年4月実施，平成15年4月実施，平成16年4月実施予定
- 2 学年まとめテスト(その1)の実施と分析
 - (1) 調査の目的
 - ・ 国語・社会・算数・理科の各分野・領域などの問題について、どの程度の理解力・思考力・判断力や知識・技能があるのかについてテストする。
 - ・ 3カ年の学習状況の変容を捉える。
 - (2) 実施内容
 - ・ 3 学年～6 学年の児童について、国語・社会・算数・理科のテストを実施する。
 - (3) 実施時期
 - ・ 平成15年3月実施，平成16年3月実施，平成17年3月実施予定
- 3 学年まとめテスト(その2)の実施と分析
 - (1) 調査の目的
 - ・ 算数の各分野・領域などの問題について、どの程度の理解力・思考力・判断力や知識・技能があるのかについてテストする。
 - ・ 3カ年の学習状況の変容を捉える。
 - (2) 実施内容
 - ・ 1 学年～6 学年の児童について、算数のテストを実施する。
 - (3) 実施時期
 - ・ 平成15年3月実施，平成16年3月実施，平成17年3月実施予定
- 4 児童，保護者，地域住民に対する意識調査と分析

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>1 研究会，説明会等の開催実績及び今後の予定</p> <p>(1) 研究会，説明会等の開催実績</p> <p>平成15年8月20日(水)「教育講演会」を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講師 玉川大学学術研究所教授 山極 隆 先生 ・ 演題 『確かな学力の定着向上を目指した学校改革』 - 基礎・基本と質の充実を通して生きる力を育てる - ・ 対象者 波崎教育部会教職員及び波崎町PTA会員 <p>平成15年10月29日(水)「研究発表会」を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業及び，町内9つの小学校の実践発表 ・ 参観者 教職員55名，保護者85名，学校評議員2名 <p>研究成果と課題について「教育鹿南」の紙面に発表した。</p> <p>(2) 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成17年度についても「教育講演会」「研究発表会」を予定している。 <p>2 HP作成等の工夫の実績及び今後の予定</p> <p>(1) HP作成等の工夫の実績</p> <p>平成13年2月，植松小学校HP (http://www7.ocn.ne.jp/~uesyou/title.html)を作成した。</p> <p>平成14年度より，HP上に「学力向上フロンティア」のタイトルを作成し，研究発表会の様子などを載せた。</p> <p>(2) 今後の予定</p> <p>随時HPの内容を更新していく。</p>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	<input type="checkbox"/> 15年度からの新規校	<input type="checkbox"/> 14年度からの継続校
【学校規模】	<input type="checkbox"/> 6学級以下 <input type="checkbox"/> 13～18学級 <input type="checkbox"/> 25学級以上	<input type="checkbox"/> 7～12学級 <input type="checkbox"/> 19～24学級
【指導体制】	<input type="checkbox"/> 少人数指導 <input type="checkbox"/> 一部教科担任制	<input type="checkbox"/> T・Tによる指導 <input type="checkbox"/> その他
【研究教科】	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 体育	<input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> その他
	<input type="checkbox"/> 算数 <input type="checkbox"/> 図画工作	<input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無